

PAIN REHABILITATION

「ペインリハビリテーション」

第24回 日本ペインリハビリテーション学会学術大会
プログラム・抄録集

Vol.9
No.2 2019

第24回 日本ペインリハビリテーション学会 学術大会

プログラム・抄録集

テーマ 痛みを治療する
ーペインリハビリテーションの真価ー

会期 2019年 9月21日(土)・22日(日)

会場 名古屋学院大学 名古屋キャンパスしろとり 翼館
〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町1番25号

大会長 坂野 裕洋
日本福祉大学健康科学部 リハビリテーション学科
理学療法学専攻 准教授

巻 頭 言



第24回日本ペインリハビリテーション学会学術大会

大会長 **坂野 裕洋** 日本福祉大学健康科学部 リハビリテーション学科
理学療法専攻 准教授

謹 啓

このたび、第24回日本ペインリハビリテーション学会学術大会を2019年9月21日(土)・22日(日)の2日間、名古屋で開催させていただきますことを誠に光栄に存じます。本学術大会では「痛みを治療する ―ペインリハビリテーションの真価―」をテーマに掲げ、リハビリテーション医学の専門家(実践者)として、ペインリハビリテーションの意義を再認識するとともに、適応と限界を詳らかにすることで、その価値と可能性について議論する機会にしたいと考えております。

大会プログラムは、大会長講演、特別講演1・2、シンポジウム1・2、特別企画、教育講演ならびに一般演題発表などを準備しました。特別講演では牛田享宏先生(愛知医科大学医学部学際的痛みセンター)より「痛み政策の現状と課題」、沖田実先生(長崎大学生命医科学域・保健学系)より「リハビリテーション専門職における疼痛学教育の現状と課題」をテーマに、日々進展する疼痛医療情勢の中で、特に会員の皆様と情報を共有したい政策と教育システムに関するトピックスについてご講演いただきます。シンポジウム1では「痛みを診る ―治療に結びつける評価―」をテーマに泉仁先生(高知大学医学部整形外科)、井上雅之先生(愛知医科大学運動療育センター)、西上智彦先生(甲南女子大学看護リハビリテーション学部)に話題提供いただき、「痛み」を可視化して治療に結びつける臨床思考過程について議論したいと思います。また、シンポジウム2では「痛みに挑む ―適応と限界を語る―」と題し坂本淳哉先生(長崎大学生命医科学域・保健学系)、瓜谷大輔先生(畿央大学健康科学部)、下和弘先生(神戸学院大学総合リハビリテーション学部)、大住倫弘先生(畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター)、平賀勇貴先生(福岡リハビリテーション病院リハビリテーション部)に話題提供いただき、各治療方法の作用機序から適応となる病態や病期を整理するとともに、ペインリハビリテーションの価値と可能性について議論したいと思います。さらに、特別企画では「症例から学ぶペインリハビリテーションの実際」をテーマに会田記章先生(順天堂大学医学部附属順天堂医院リハビリテーション室)、片岡英樹先生(長崎記念病院リハビリテーション部)、久郷真人先生(滋賀医科大学医学部附属病院リハビリテーション部)より病期別にペインリハビリテーションの実践例をご提示頂き、臨床思考の共有を図りたいと思います。教育講演では、大住倫弘先生(畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター)、金原一宏先生(聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部)、川崎元敬先生(四国こどもとおとなの医療センター疼痛医療センター)にご登壇いただき、ペインリハビリテーションの実践に必要な知識をご提供いただきます。また、一般演題発表では、過去最多の口述発表46題、ポスター発表34題が採択されましたので、ぜひとも積極的な議論、情報交換の場にさせていただきたいと思います。

残暑も去り爽秋の名古屋で、多数の皆様にご参集いただき、有意義で実りある学術大会となりますことを心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、本学術大会の運営にご尽力いただきました運営委員ならびに理事、代議員の先生方、また、多大なるご支援を賜りました後援企業の方々に心より感謝申し上げます。

謹 白

運営委員（敬称略，順不同）

松原 貴子（神戸学院大学大学院）
沖田 実（長崎大学大学院）
森岡 周（畿央大学大学院）
井上 雅之（愛知医科大学）
大住 倫弘（畿央大学大学院）
片岡 英樹（長崎記念病院）
坂本 淳哉（長崎大学大学院）
城 由起子（名古屋学院大学）
西上 智彦（甲南女子大学）
坂野 裕洋（日本福祉大学）
平川 善之（福岡リハビリテーション病院）

査読委員（敬称略，順不同）

松原 貴子（神戸学院大学大学院）	沖田 実（長崎大学大学院）
森岡 周（畿央大学大学院）	坂本 淳哉（長崎大学大学院）
肥田 朋子（名古屋学院大学）	西上 智彦（甲南女子大学）
坂野 裕洋（日本福祉大学）	平川 善之（福岡リハビリテーション病院）
城 由起子（名古屋学院大学）	大住 倫弘（畿央大学）
今井 亮太（大阪河崎リハビリテーション大学）	片岡 英樹（長崎記念病院）
下 和弘（神戸学院大学）	平瀬 達也（長崎大学大学院）
井上 雅之（愛知医科大学）	近藤 康隆（長崎原爆病院）
片山 脩（国立長寿医療研究センター）	濱上 陽平（新潟医療福祉大学）
金原 一宏（聖隷クリストファー大学）	壬生 彰（甲南女子大学）
田中 創（福岡整形外科病院）	大賀 智史（長崎原爆病院）
江草 典政（島根大学医学部附属病院）	大鶴 直史（新潟医療福祉大学大学院）
平賀 勇貴（福岡リハビリテーション病院）	筒居 直美（帝京平成大学）
佐藤 剛介（奈良県総合リハビリテーションセンター）	土井 篤（熊本保健科学大学大学院）
田中 克宜（田辺整形外科上本町クリニック）	重藤 隼人（三浦内科みちこ小児科クリニック）
大友 篤（仙台青葉学院短期大学）	

目 次

交通のご案内	1
キャンパスマップ	2
会場マップ	3
参加者へのご案内	5
発表者へのご案内	7
大会スケジュール	9
発表演題一覧	11
プログラム	12
大会長講演	
坂野 裕洋：痛みを治療する ―ペインリハビリテーションの真価―	26
特別講演	
牛田 享宏：痛み政策の現状と課題	30
沖田 実：リハビリテーション専門職における疼痛学教育の現状と課題	32
特別企画 症例から学ぶペインリハビリテーションの実際	
会田 記章：術後急性期におけるペインリハビリテーションについて	36
片岡 英樹：回復期におけるペインリハビリテーションの実際	38
久郷 真人：慢性期におけるペインリハビリテーションの実際	40
シンポジウム1 痛みを診る ―治療に結びつける評価―	
泉 仁：QST を用いた痛み感受性の定量評価	44
井上 雅之：身体・運動機能評価	46
西上 智彦：患者立脚型アウトカムを含む疼痛関連質問票評価	48
シンポジウム2 痛みに挑む ―適応と限界を語る―	
坂本 淳哉：物理療法	52
瓜谷 大輔：徒手療法	54
下 和弘：運動療法	56
大住 倫弘：ニューロリハビリテーション	58
平賀 勇貴：作業療法	60
教育講演	
大住 倫弘：痛みの中核制御機構	64
金原 一宏：慢性疼痛のリハビリテーション多面的評価	66
川崎 元敬：痛みのレッドフラッグ	68
ランチョンセミナー1	
竹下 克志：腰痛診療ガイドラインからみた運動療法と薬物療法	72
ランチョンセミナー2	
上野 博司：痛みを緩和するための薬の使い方・考え方 ～オピオイド鎮痛薬を中心に～	76
一般演題セッション(口述発表)	80
一般演題セッション(ポスター発表)	104
協賛企業一覧	121
定 款	122
役員・委員会委員名簿	129
投稿規程	131
編集後記	133

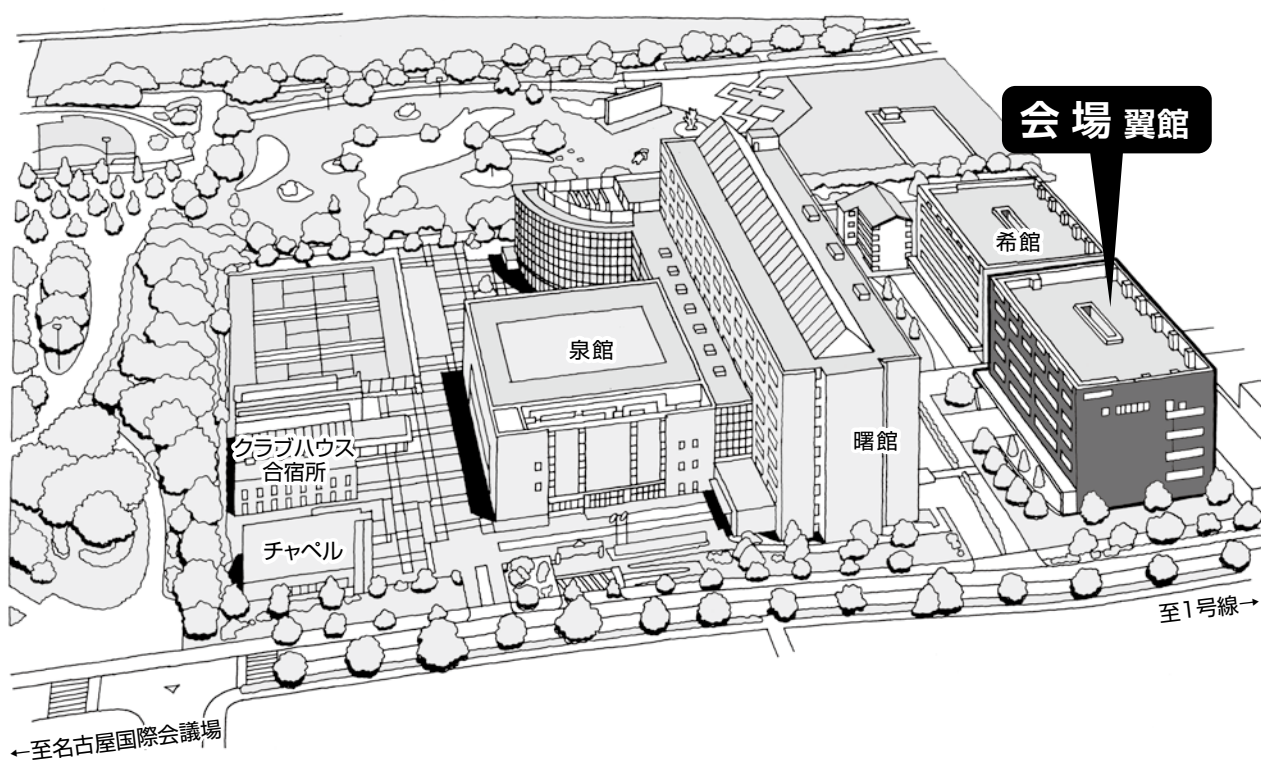
交通のご案内



- ◆地下鉄名港線「日比野」駅下車、
1番出口を出てまっすぐ進み、最初の信号(名古屋国際会議場北)を
右へ約500m。
- ◆地下鉄名城線「西高蔵」駅下車、
2番出口から名古屋国際会議場方面へ進み、橋を渡り最初の信号(名古屋国際会議場北)を
左へ約500m。

キャンパスマップ

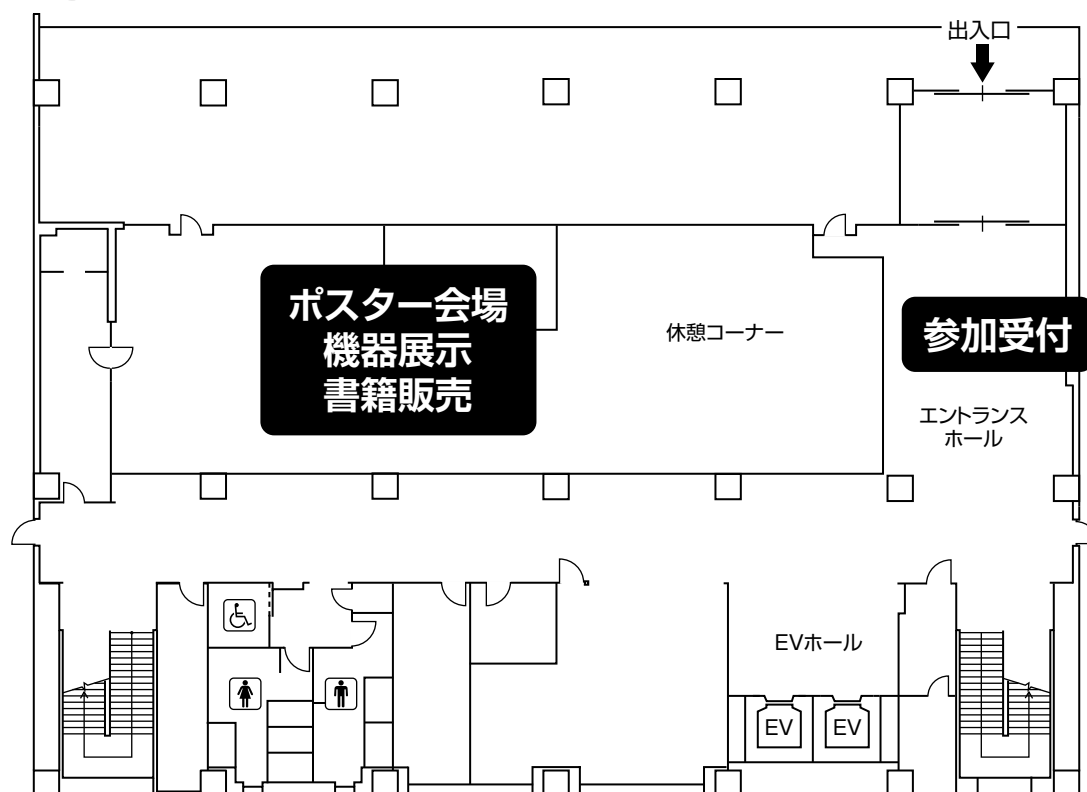
名古屋学院大学
名古屋キャンパスしろとり



会場マップ

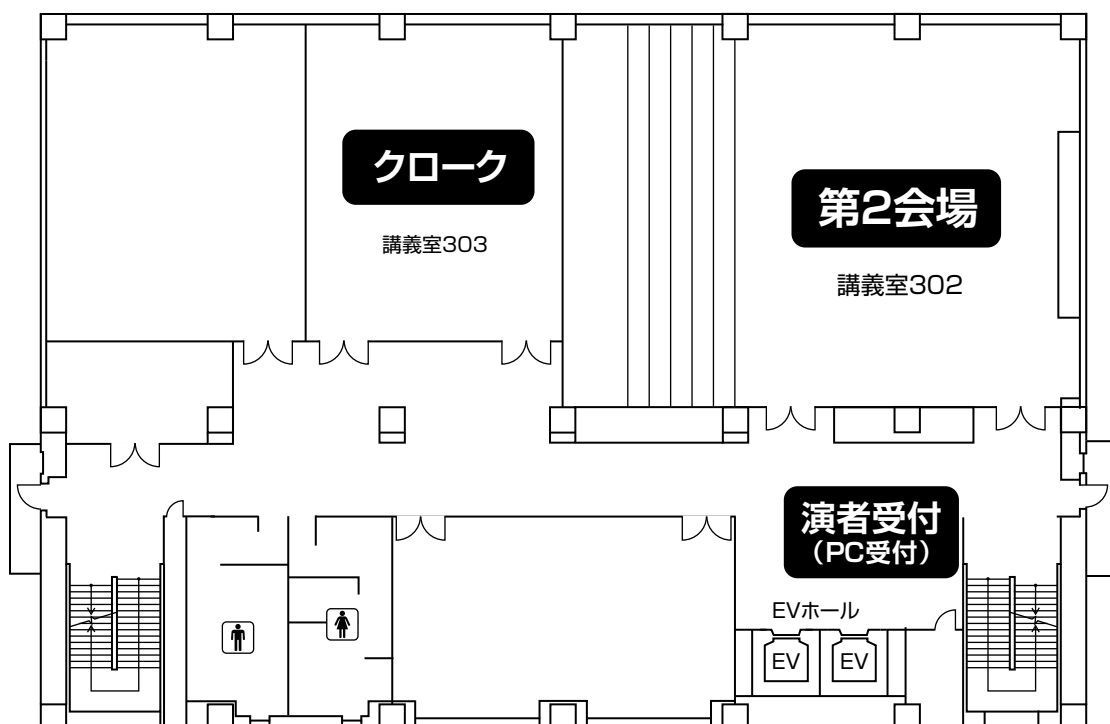
翼館

1F



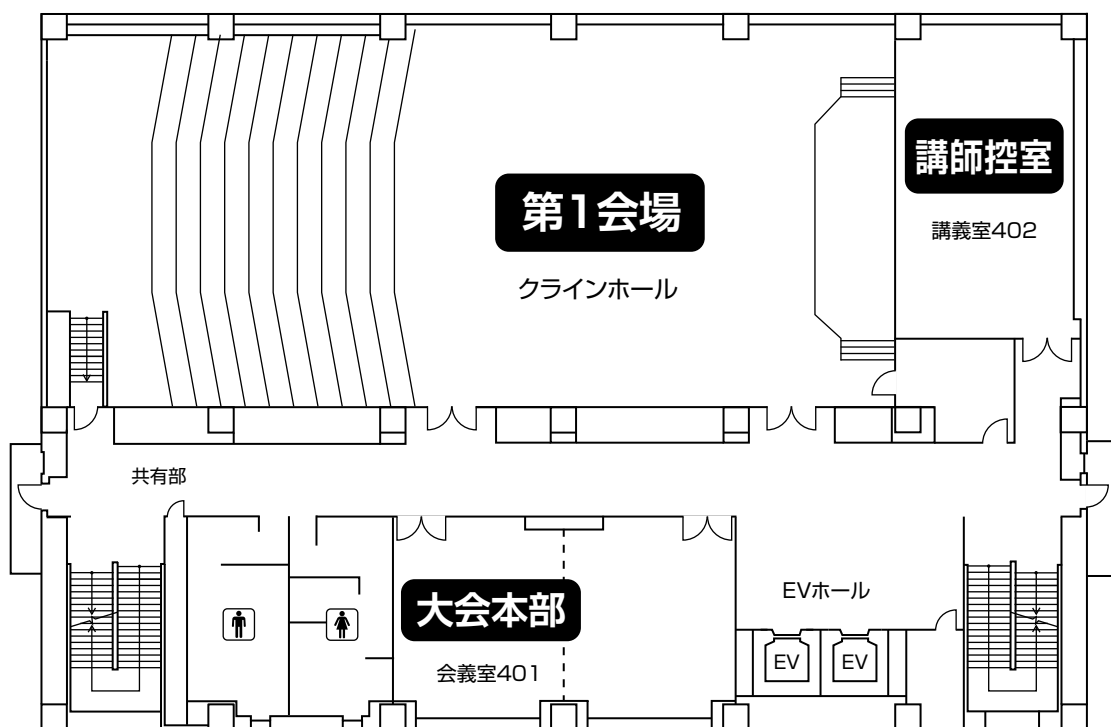
翼館

3F



翼館

4F



参加者へのご案内

■総合受付

場 所：名古屋学院大学 名古屋キャンパスしろとり 翼館 1階

受付時間：9月21日(土) 8:30～17:00

9月22日(日) 8:30～13:30

■参加費

一般(会 員)：10,000円

一般(非会員)：12,000円

学 生：1,000円

但：「学生」の場合は、受付時に学生証または在籍証明書の提示をお願いします(大学院生は含まれません)。

■抄録集

抄録集は当日会場へご持参ください。大会当日は販売も行います。別途購入される方は、総合受付にてお買い求めください(1,500円/冊)。

■クローク

場 所：名古屋学院大学 名古屋キャンパスしろとり 翼館 3階

受付時間：9月21日(土) 8:30～18:30

9月22日(日) 8:30～16:00

■企業展示

会 場：名古屋学院大学 名古屋キャンパスしろとり 翼館 1階

時 間：9月21日(土) 8:30～18:00

9月22日(日) 8:30～14:30

■教育講演受講証の発行について

教育講演受講証の発行をご希望される方は、当日に配布いたします所定の用紙に必要事項をご記入の上、教育講演終了後に出口に設置しております回収ボックスへご提出ください。受講証は当日17時以降に受付にて交付いたします。

■その他ご注意

1. 一般演題(口述, ポスター)の発表者の変更が生じた場合は速やかに総合受付までご連絡ください。
2. 講演会場内では携帯電話はマナーモードに設定していただくか、電源をお切りください。
3. 会場内での呼び出しは原則いたしません。
4. 発表スライドまたはポスターの写真・ビデオ撮影は禁止いたします。
5. 質問のある方は、あらかじめマイクの前に立って、座長の指示に従い、所属・氏名を述べたのち簡潔に発言してください。

■情報交換会

日 時：2019年9月21日(土) 19:00～20:30(受付18:45～)

会 場：サイプレスガーデンホテル 2階『天の間』

〒456-0002 愛知県名古屋市熱田区金山町1丁目9-8

TEL：052-679-1661 <http://www.cypress-garden.co.jp>

参 加 費：一般3,000円／学生1,500円

申し込み：本学会当日の参加登録受付時に学会参加とともにお申込みください。

第25回日本ペインリハビリテーション学会学術大会

会 期：2020年10月31日(土)・11月1日(日)

会 場：九州大学医学部 百年講堂(福岡県福岡市)

大会長：平川 善之(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部)

発表者へのご案内

■発表形式

1. 口述発表

優秀賞候補演題：発表時間9分、質疑応答3分です。

一般演題：発表時間7分、質疑応答3分です。

2. ポスター発表

2分間のプレゼンテーションの後、自由討議を行なっていただきます。

■口述発表要領

1. すべての発表においてPCを用いて発表していただきます。PCは学会で準備致します。
2. 口述発表はPCプレゼンテーション(OS:MS Windows, ソフトウェア PowerPoint 2007～2016)のみとします。
3. スライドのサイズは「標準(4:3)」で作成してください。また、スライド枚数に制限はありませんが、時間内に発表が終了するように作成してください。動画、音声の使用は極力お避けください。

■ご発表メディアの受付

1. ご発表データはメディア(CD-RあるいはUSBフラッシュメモリー)にて受け付けます。
2. メディアはウイルス定義データを最新のものに更新されたセキュリティソフトにて、ウイルスに感染していないことを必ず確認してお持ちください。
3. 一般演題については、PCの持ち込みは受け付けませんので、発表データ作成後、作成したPC以外で正常にデータが起動するかご確認ください。
4. ファイル名は「演題番号 演者名」としてください。
(例: O1-1 学会太郎)
5. 大会当日、翼館3階エレベーターホールのPC受付にて発表データを受け付けます。
6. ご発表の1時間前までにPC受付にお越しください。

■ポスター発表要領

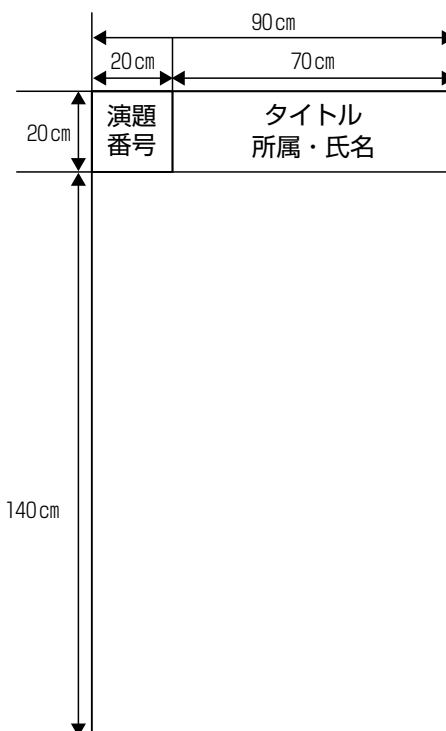
1. 会場：翼館 1階
2. 時間：ポスター貼付：9月21日(土) 8:30～12:55
ポスター発表：9月21日(土) 12:55～13:40 奇数セッション(P1, P3, P5, P7)
9月22日(日) 13:40～14:25 偶数セッション(P2, P4, P6, P8)
ポスター撤去：9月22日(日) 15:30～16:00
3. 演者は予めポスターボードに備え付けのリボンを着用し、上記の発表時間までにはご自身のポスター前に待機してください。
4. 座長が氏名・所属を紹介してから2分間で研究紹介を行ってください。時間は厳守してください。
5. ポスターの撤去時間内に必ずご自身のポスターを撤去してください。

■ポスター作成要領

1. 各ポスターパネルの演題番号は大会側で用意します。
2. ポスターの貼付面のサイズは縦140 cm, 横90 cmの範囲内でまとめてください。
3. タイトル(演題名, 所属, 氏名)は縦20 cm, 横70 cmのサイズ内で作成してください。
4. 質問・意見袋が必要な場合は, 各自で持参, 設置してください。

■倫理上の注意

1. ヘルシンキ宣言に沿った研究であることを確認してください。
2. 発表演題に対する倫理的配慮を発表内に含めてください。
3. 特にプライバシーや人体に影響を与える研究に関しては, 対象者に説明と同意を得たことをスライドもしくはポスター内に明記してください。



■利益相反の開示について

1. 第24回日本ペインリハビリテーション学会学術大会での発表者は, スライドもしくはポスター内に利益相反の有無および利益相反がある場合には企業名を提示してください。
 口述発表の場合: 発表時に, スライドの2枚目に, 別に定める(様式1) (<http://japr.hp4u.jp/COI>) より, 利益相反に関する報告事項を開示してください。
 ポスター発表の場合: 別に定める(様式1) (<http://japr.hp4u.jp/COI>) に基づいて, ポスター内に利益相反に関する報告事項を開示してください。
2. なお, 利益相反に関する報告すべき事項がある場合は, 口述発表・ポスター発表に関わらず(様式2) (<http://japr.hp4u.jp/COI>) を抄録シートと共に総合受付に提出してください。

1日目 2019年9月21日(土)

第1会場 4階 クラインホール		ポスター会場 1階	第2会場 3階 講義室302
8:30	8:30～ 受付開始	ポスター貼付 企業展示	
9:00	8:55～9:00 大会長挨拶 9:00～10:00 教育講演 1 痛みの中枢制御機構 座長：片山 脩(国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター) 講師：大住 倫弘(畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター) 2 慢性疼痛のリハビリテーション多面的評価 座長：田中 克宜(田辺整形外科上本町クリニック リハビリテーション科) 講師：金原 一宏(聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部) 座長：平川 善之(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部) 講師：川崎 元敬(四国こどもとおとなの医療センター 疼痛医療センター)		
10:00	10:05～10:25 大会長講演 痛みを治療するーペインリハビリテーションの真価ー 座長：平川 善之(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部) 講師：坂野 裕洋(日本福祉大学 健康科学部)		
11:00	10:25～11:30 一般演題 1 治療 1 O1-1～O1-6 座長：田中 創(福岡整形外科病院 リハビリテーション科)		10:25～11:30 一般演題 2 基礎 O2-1～O2-6 座長：肥田 朋子 (名古屋学院大学 リハビリテーション学部)
12:00	11:45～12:45 ランチョンセミナー 1 腰痛診療ガイドラインからみた運動療法と薬物療法 座長：松原 貴子(神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究所) 講師：竹下 克志(自治医科大学 整形外科) 共催：塩野義製薬株式会社	12:55～13:40 ポスター発表 P1, P3, P5, P7 企業展示	
13:00			
14:00	13:45～14:50 シンポジウム 1 痛みを診るー治療に結びつける評価ー 座長：片岡 英樹(長崎記念病院 リハビリテーション部) 井上 雅之(愛知医科大学 運動療育センター) QSTを用いた痛み感受性の定量評価 シンポジスト：泉 仁(高知大学医学部 整形外科) 身体・運動機能評価 シンポジスト：井上 雅之(愛知医科大学 運動療育センター) 患者立脚型アウトカムを含む疼痛関連質問票評価 シンポジスト：西上 智彦(甲南女子大学 看護リハビリテーション学部)	ポスター展示 企業展示	
15:00	14:55～15:50 一般演題 3 病態・疫学 1 O3-1～O3-5 座長：許山 勝弘(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部)		14:55～15:50 一般演題 4 治療 2 O4-1～O4-5 座長：会田 記章 (順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室)
16:00	15:55～16:50 一般演題 5 治療 3 O5-1～O5-5 座長：大友 篤(仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科)		15:55～16:50 一般演題 6 評価 O6-1～O4-5 座長：今井 亮太 (大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法専攻)
17:00	16:55～18:10 一般演題 7 学会優秀賞候補演題 O7-1～O7-6 座長：佐藤 剛介(奈良県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション科) 土井 篤(熊本保健科学大学 保健科学部)		
18:00			
19:00	19:00～20:30 情報交換会 会場：サイプレスガーデンホテル 2階『天の間』		

2日目

2019年9月22日

第 1 会 場 4階 クラインホール		ポスター会場 1階	第2会場 3階 講義室302
8:30	8:30～ 受 付 開 始		
9:00	9:00～9:45 一般演題 8 治療 4 O8-1～O8-4 座長：重藤 隼人（三浦内科みちこ小児科クリニック リハビリテーション科）	ポスター展示 企業展示	9:00～9:45 一般演題 9 病態・疫学 2 O9-1～O9-4 座長：濱上 陽平 （新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部）
10:00	9:50～10:50 特 別 講 演 1 痛み政策の現状と課題 座長：坂野 裕洋（日本福祉大学 健康科学部） 講師：牛田 享宏（愛知医科大学医学部 学際的痛みセンター） 2 リハビリテーション専門職における疼痛学教育の現状と課題 座長：井上 雅之（愛知医科大学 運動療育センター） 講師：沖田 実（長崎大学 生命医科学域・保健学系）		
11:00	10:55～12:20 シンポジウム 2 痛みに挑む 一適応と限界を語るー 座長：松原 貴子（神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究科） 坂本 淳哉（長崎大学 生命医科学域・保健学系） 物理療法 シンポジスト：坂本 淳哉（長崎大学 生命医科学域・保健学系） 徒手療法 シンポジスト：瓜谷 大輔（畿央大学 健康科学部） 運動療法 シンポジスト：下 和弘（神戸学院大学 総合リハビリテーション学部） ニューロリハビリテーション シンポジスト：大住 倫弘（畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター） 作業療法 シンポジスト：平賀 勇貴（福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部）		
12:00	12:30～13:30 ランチョンセミナー 2 痛みを緩和するための薬の使い方・考え方 ～オピオイド鎮痛薬を中心に～ 座長：松原 貴子（神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究科） 講師：上野 博司（京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部） 主催：第24回学術大会		
14:00		13:40～14:25 ポスター発表 P2, P4, P6, P8 企業展示	
15:00	14:30～15:30 特 別 企 画 症例から学ぶペインリハビリテーションの実際 座長：西上 智彦（甲南女子大学 看護リハビリテーション学部） 平川 善之（福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部） 術後急性期におけるペインリハビリテーションについて シンポジスト：会田 記章（順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室） 回復期におけるペインリハビリテーションの実際 シンポジスト：片岡 英樹（長崎記念病院 リハビリテーション部） 慢性期におけるペインリハビリテーションの実際 シンポジスト：久郷 真人（滋賀医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部）	ポスター展示 企業展示	
16:00	15:30～15:45 次期大会長挨拶ならびに表彰式・閉会の辞 平川 善之（福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部、第25回学術大会長）	15:30～16:00 ポスター撤去	

発表演題一覧

■学会優秀賞について

第24回日本ペインリハビリテーション学会学術大会におきましては学会優秀賞として、最優秀賞1名、優秀賞2名を選出いたします。

〈学会優秀賞候補演題〉

07-1 丹羽 祐斗

Exercise-induced hypoalgesia をもたらす
至適運動強度の検討

07-2 田中 陽理

慢性疼痛を呈した在宅高齢者の抑うつの有無が
訪問リハビリテーションの効果におよぼす影響

07-3 服部 貴文

変形性股関節症の慢性関節痛と機能障害における
神経障害性要因の影響

07-4 田中 克宜

中枢性感作関連症状を呈する筋骨格系疼痛患者の特徴
—疼痛範囲及び罹患期間による検討—

07-5 桂 祐一

脳卒中後麻痺側上肢の複合性局所疼痛症候群と
上下肢の運動機能との関係

07-6 平川 善之

CRPS 患者の患側空間注意障害に受動的注意機能が関与する

プログラム

会場：名古屋学院大学 名古屋キャンパスしろとり 翼館

大会長講演

9月21日(土) 10:05～10:25 第1会場(4階 クラインホール)

痛みを治療する ーペインリハビリテーションの真価ー

座長：平川 善之 福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

講師：坂野 裕洋 日本福祉大学 健康科学部

特別講演

9月22日(日) 9:50～10:50 第1会場(4階 クラインホール)

SL-1 痛み政策の現状と課題

座長：坂野 裕洋 日本福祉大学 健康科学部

講師：牛田 享宏 愛知医科大学 医学部 学際的痛みセンター

SL-2 リハビリテーション専門職における疼痛学教育の現状と課題

座長：井上 雅之 愛知医科大学 運動療育センター

講師：沖田 実 長崎大学 生命医科学域・保健学系
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻理学療法学分野

特別企画

9月22日(日) 14:30～15:30 第1会場(4階 クラインホール)

座長：西上 智彦(甲南女子大学 看護リハビリテーション学部)

平川 善之(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部)

[症例から学ぶペインリハビリテーションの実際]

SP-1 術後急性期におけるペインリハビリテーションについて

会田 記章 順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室

SP-2 回復期におけるペインリハビリテーションの実際

片岡 英樹 長崎記念病院 リハビリテーション部

SP-3 慢性期におけるペインリハビリテーションの実際

久郷 真人 滋賀医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部

シンポジウム1

9月21日(土) 13:45~14:50 第1会場(4階 クラインホール)

座長: 片岡 英樹(長崎記念病院 リハビリテーション部)

井上 雅之(愛知医科大学 運動療育センター)

[痛みを診る ―治療に結びつける評価―]**S1-1 QST を用いた痛み感受性の定量評価**

泉 仁 高知大学 医学部 整形外科

S1-2 身体・運動機能評価

井上 雅之 愛知医科大学 運動療育センター

S1-3 患者立脚型アウトカムを含む疼痛関連質問票評価

西上 智彦 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部

シンポジウム2

9月22日(日) 10:55~12:20 第1会場(4階 クラインホール)

座長: 松原 貴子(神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究科)

坂本 淳哉(長崎大学 生命医科学域・保健学系)

[痛みに挑む ―適応と限界を語る―]**S2-1 物理療法**

坂本 淳哉 長崎大学 生命医科学域・保健学系

S2-2 徒手療法

瓜谷 大輔 畿央大学 健康科学部

S2-3 運動療法

下 和弘 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部

S2-4 ニューロリハビリテーション

大住 倫弘 畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター

S2-5 作業療法

平賀 勇貴 福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

教育講演

9月21日(土) 9:00～10:00 第1会場(4階 クラインホール)

EL-1 痛みの中枢制御機構

座長：片山 脩 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター

講師：大住 倫弘 畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター

EL-2 慢性疼痛のリハビリテーション多面的評価

座長：田中 克宜 田辺整形外科上本町クリニック リハビリテーション科

講師：金原 一宏 聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部

EL-3 痛みのレッドフラッグ

座長：平川 善之 福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

講師：川崎 元敬 独立行政法人国立病院機構
四国こどもとおとなの医療センター 疼痛医療センター

ランチョンセミナー1

9月21日(土) 11:45～12:45 第1会場(4階 クラインホール)

共催：塩野義製薬株式会社

腰痛診療ガイドラインからみた運動療法と薬物療法

座長：松原 貴子 神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究科

講師：竹下 克志 自治医科大学 整形外科

ランチョンセミナー2

9月22日(日) 12:30～13:30 第1会場(4階 クラインホール)

主催：第24回学術大会

痛みを緩和するための薬の使い方・考え方
～オピオイド鎮痛薬を中心に～

座長：松原 貴子 神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究科

講師：上野 博司 京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部

一般演題セッション(口述発表) プログラム

一般演題1 [治療]

9月21日(土) 10:25～11:30 第1会場(4階 クラインホール)

座長: 田中 創(福岡整形外科病院 リハビリテーション科)

- O1-1** 足部・足関節骨折患者に対する患部・全身の不活動の是正に着目した
リハビリテーションの効果の検討
柿田 徹郎 社会医療法人 長崎記念病院 リハビリテーション部
- O1-2** 回復期病棟患者の身体活動量が疼痛関連症状および身体機能に及ぼす影響
中藺 良太 藤井会リハビリテーション病院 リハビリテーション部
- O1-3** 人工膝関節置換術後患者における活動日記を用いた
段階的なペーシングが歩行時痛と不安および抑うつを改善させる
平賀 勇貴 福岡リハビリテーション病院
- O1-4** 疼痛教育, 痛み日記を活用して股関節痛が緩解した一症例
永見 達朗 医療法人サカもみの木会 サカ緑井病院
- O1-5** 複合的リハビリテーションが奏功したが, その後, 症状増悪が生じ,
心因反応の関与が強く疑われた複合性局所疼痛症候群症例
栗田 慎也 公益財団法人 東京都保健医療公社 荏原病院 リハビリテーション科
- O1-6** 運動療法を行う際の感情の重要性
～神経生理学的評価を用いた一症例の検討～
河合 洋輔 寺田痛みのクリニック

一般演題2 [基礎]

9月21日(土) 10:25～11:30 第2会場(3階 講義室302)

座長: 肥田 朋子(名古屋学院大学 リハビリテーション学部)

- O2-1** ジクロフェナクを用いた低強度パルス超音波フォノフォレーシス療法が
ラット膝関節炎の急性期の腫脹や痛みにおよぼす影響
佐々木 遼 十善会病院 リハビリテーション科
- O2-2** 不動性筋痛の発生には筋線維萎縮を発端としたマクロファージの集積と
IL-1 β の過剰発現が関与する
大賀 智史 日本赤十字社 長崎原爆病院 リハビリテーション科
- O2-3** 継続的な歩行運動の実践が変形性膝関節症発症後の痛みにおよぼす影響
—ラット変形性膝関節症モデルを用いた実験的検討—
竹下 いづみ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻 理学療法学分野

O2-4 非侵害または侵害刺激による疼痛緩和システムにおける感覚神経線維の種別反応性に関する検討

小河 翔

神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究所

O2-5 Conditioned pain modulation と時間的加重の相互性から中枢性疼痛調節機能を解析する

加藤 翔

神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究所

O2-6 入院時の Conditioned pain modulation は退院時の疼痛症状を予測できるか

高尾 幸佑

医療法人宏和会 あさいクリニック リハビリテーション科

一般演題3 [病態・疫学1]

9月21日(土) 14:55~15:50 第1会場(4階 クラインホール)

座長：許山 勝弘(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部)

O3-1 在宅酸素療法患者の慢性疼痛と身体活動の関係性

森本 孝一

高山赤十字病院 リハビリテーション科

O3-2 地域在住高齢者の下肢の痛みの有無と歩行能力および歩行自己効力感の関連

平井 達也

医療法人愛仁会 名春中央病院

O3-3 脊椎椎体骨折患者の再骨折の有無による経時的変化の疼痛関連因子や歩行自立度の比較 ―前向きコホート研究―

橋本 彩歌

社会福祉法人恩賜財団済生会支部広島県済生会 済生会呉病院

O3-4 慢性腰痛有訴者における体幹屈曲伸展運動の姿勢制御

西 祐樹

畿央大学大学院健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

O3-5 慢性腰痛患者の ADL 障害と運動制御の特徴および疼痛関連因子との関連性 ―連関規則分析を用いて―

重藤 隼人

畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

一般演題4 [治療2]

9月21日(土) 14:55~15:50 第2会場(3階 講義室302)

座長：会田 記章(順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室)

O4-1 人工膝関節置換術後に感作を伴う、広範な痛覚過敏と不眠を呈した症例 ―身体知覚異常に対する触覚識別課題も用いた臨床介入―

内藤 卓也

福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

O4-2 変形性膝関節症患者における身体知覚異常の能力障害への影響 ―交差的時間差相関分析―

田中 創

福岡整形外科病院 リハビリテーション科

O4-3 人工膝関節全置換術術後筋力トレーニングにおける新たな試み

小田 翔太 高知大学医学部附属病院 リハビリテーション部

**O4-4 腰椎後方椎体間固定術後の短期集中介入により床上動作の改善が得られた症例
～姿勢・動作指導に対する遵守に着目して～**

多々良 大輔 医療法人オアシス 福岡志恩病院

**O4-5 慢性疼痛を考慮した術後理学療法的重要性
―片側進入腰椎後方除圧固定術を施行した症例の経験―**足立 功浩 社会福祉法人聖隷福祉事業団 医療保護施設・地域医療支援病院
総合病院 聖隷三方原病院**一般演題5 [治療3]**

9月21日(土) 15:55～16:50 第1会場(4階 クラインホール)

座長：大友 篤(仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科)

O5-1 ストレス作業後の人工炭酸泉足浴が気分と中枢感作に与える影響

大田 英登 日本福祉大学 健康科学部 リハビリテーション学科

O5-2 大腿骨骨折術後の亜急性痛に対する単回の脊髄近傍 TENS の鎮痛効果

山口 修平 済衆館病院 リハビリテーション科

**O5-3 勤労世代の慢性疼痛患者に対する
短期入院型ペインマネジメントプログラムの復職への効果**

中楚 友一朗 愛知医科大学 運動療育センター

**O5-4 入院集学的リハビリテーションにおける恐怖回避思考への教育介入
―運動恐怖への段階的暴露により機能が改善した慢性腰痛患者の1例―**

前田 吉樹 奈良学園大学 保健医療学部

O5-5 交通外傷後の遷延痛に対する社会復帰を目指した外来リハビリテーションの一例

成瀬 宏司 医療法人医仁会 さくら総合病院

一般演題6 [評価]

9月21日(土) 15:55～16:50 第2会場(3階 講義室302)

座長：今井 亮太(大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法学専攻)

**O6-1 有酸素運動がしびれと安静時脳波活動に及ぼす長期的効果の検証
―頸髄損傷者1例による予備的研究―**

佐藤 剛介 奈良県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション科

**O6-2 Central Sensitization Inventory と定量的感覚検査の関係性および臨床症状との関連
―頸背部痛と上下肢痛での検討―**

堀 卓馬 田辺整形外科上本町クリニック

O6-3 肩関節疾患患者の関節可動域に影響する疼痛関連因子の検討
—保存療法群と手術適応群の比較—

小山田 泰健 医療法人正明会 諸岡整形外科クリニック 理学療法部

O6-4 慢性疼痛の日内律動性について
—律動性の各タイプ分類と疼痛特性について—

田中 陽一 奈良県総合リハビリテーションセンター

O6-5 人工膝関節全置換術患者の術前の破局的思考と
術後早期の膝機能の改善との関係性

松尾 英明 福井大学 医学部附属病院 リハビリテーション部

一般演題7 [学会優秀賞候補演題]

9月21日(土) 16:55~18:10 第1会場(4階 クラインホール)

座長：佐藤 剛介(奈良県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション科)
土井 篤(熊本保健科学大学 保健科学部)

O7-1 Exercise-induced hypoalgesia をもたらす至適運動強度の検討

丹羽 祐斗 神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究科

O7-2 慢性疼痛を呈した在宅高齢者の抑うつの有無が訪問リハビリテーションの
効果におよぼす影響

田中 陽理 社会医療法人長崎記念病院 リハビリテーション部

O7-3 変形性股関節症の慢性関節痛と機能障害における神経障害性要因の影響

服部 貴文 前原整形外科リハビリテーションクリニック

O7-4 中枢性感作関連症状を呈する筋骨格系疼痛患者の特徴
—疼痛範囲及び罹患期間による検討—

田中 克宜 田辺整形外科上本町クリニック

O7-5 脳卒中後複合性局所疼痛症候群と上下肢運動機能の関係性

桂 祐一 医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター

O7-6 CRPS 患者の患側空間注意障害に受動的注意機能が関与する

平川 善之 福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

一般演題8 [治療4]

9月22日(日) 9:00~9:45 第1会場(4階 クラインホール)

座長：重藤 隼人(三浦内科みちこ小児科クリニック リハビリテーション科)

- O8-1** 人工膝関節全置換術後早期に実践する視覚および聴覚 feedback を用いた
大腿四頭筋の等尺性筋収縮運動の長期効果の検討
近藤 康隆 日本赤十字社長崎原爆病院 リハビリテーション科
- O8-2** 継続的な運動は慢性疼痛有訴者の主観的疼痛症状緩和に先行して
疼痛調節機能を変化させる
常盤 雄地 神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究科
- O8-3** 整形外科的疾患患者への徒手刺激による介入が自律神経機能に及ぼす影響
藤本 大介 医療法人社団 SEISEN 清泉クリニック整形外科
- O8-4** パーキンソン病患者の腰痛に対し、神経ブロック併用下リハビリテーションが
有効であった一症例
加藤 直樹 大阪大学医学部附属病院 リハビリテーション部

一般演題9 [病態・疫学2]

9月22日(日) 9:00~9:45 第2会場(3階 講義室302)

座長：濱上 陽平(新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部)

- O9-1** 高位脛骨骨切術後の感作と疼痛及び疼痛関連因子との相関；予備的研究
問田 純一 福岡リハビリテーション病院
- O9-2** 中枢性感作症候群と痛みの関係性
—クラスター分析による特徴抽出—
古賀 優之 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室
- O9-3** 慢性疼痛患者の運動機能・生活機能障害の実態とその関係性
—世代間比較—
城 由起子 愛知医科大学 医学部 学際的痛みセンター
- O9-4** 複雑な症状を呈した胸郭出口症候群術後症例における理学療法経験
紙谷 浩喜 社会医療法人恵愛会 大分中村病院

一般演題セッション(ポスター発表) プログラム

ポスター会場：名古屋学院大学 名古屋キャンパスしろとり 翼館 1階

ポスター発表1 [基礎・病態]

9月21日(土) 12:55～13:40

座長：壬生 彰(甲南女子大学)

P1-1 ラット膝関節炎モデルに対する患部外の自発運動が疼痛軽減効果におよぼす影響

童 穎

長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻 理学療法分野

P1-2 大腿骨近位部骨折術後患者の身体活動性が退院時の痛み、運動機能、ADLにおよぼす影響

後藤 響

長崎記念病院 リハビリテーション部

P1-3 大腿骨骨折術後痛と imagined Timed Up & Go test の関係性

山口 修平

済衆館病院 リハビリテーション科

P1-4 下肢血管内治療前の末梢動脈疾患患者における低身体活動は不安と自己効力感が関連する

瀧野 皓哉

岐阜ハートセンター 心臓リハビリテーション室

ポスター発表2 [病 態]

9月22日(日) 13:40～14:25

座長：薦田 昭宏(だいいちリハビリテーション病院)

P2-1 痛み改善が術後3か月時の精神心理的要因に及ぼす影響 —腰椎疾患手術例での検討—

小林 寛崇

福島県立医科大学附属病院 リハビリテーションセンター

P2-2 腰痛を有する腰部脊柱管狭窄症患者の QOL に影響を及ぼす因子の検討

渡辺 祐樹

福島県立医科大学附属病院 リハビリテーションセンター

P2-3 腰椎手術後の腰痛遷延化に関連する因子の検討

阿部 純平

公立大学法人 福島県立医科大学附属病院 リハビリテーションセンター

P2-4 腰痛の程度と運動恐怖による就労者の運動学的特徴 ～作業動作の経時的変化に着目して～

藤井 廉

畿央大学大学院健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

ポスター発表3 [評価・病態]

9月21日(土) 12:55~13:40

座長：森本 孝一(高山赤十字病院)

P3-1 運動器疾患を有する認知症高齢者の急性期疼痛管理の必要性

鈴木 亨 総合犬山中央病院 リハビリテーション科

P3-2 NRS 最小値0と答えたことのある慢性疼痛患者の特徴

佐久間 俊輔 寺田痛みのクリニック

P3-3 破局的思考と中枢神経感作が回復期運動器疾患患者の日常生活活動に与える影響

田村 翔太郎 イムス札幌内科リハビリテーション病院

P3-4 運動恐怖の変化と痛みの強度・腰部痛による苦悩感の変化の関係性
～慢性腰痛患者での1ヶ月間での検討～

山本 将揮 医療法人青洲会 なかつか整形外科リハビリクリニック

P3-5 人工股関節全置換術前の JHEQ と痛みに対する破局的思考の関連

林 和寛 愛知医科大学 学際的痛みセンター

ポスター発表4 [評価・病態]

9月22日(日) 13:40~14:25

座長：後藤 響(長崎記念病院)

P4-1 認知機能低下を呈する高齢者の観察による疼痛行動評価についての試み

中田 健太 池田リハビリテーション病院 リハビリテーション部

P4-2 日本語版 Short-Form McGill Pain Questionnaire-2(以下, SF-MPQ-2)を用いた
人工膝関節全置換術(以下, TKA)後における疼痛の解析

梶原 勇人 社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 座間総合病院

P4-3 当院における人工膝関節置換術後の膝痛発生状況と危険因子に関する
前向きコホート研究

朝倉 淳弥 前原整形外科リハビリテーションクリニック リハビリテーション部

P4-4 人工膝関節置換術後患者の心理面は精神疾患の既往歴の有無に影響するか

許山 勝弘 福岡リハビリテーション病院

P4-5 人工膝関節全置換術前患者におけるロコモと痛み, 運動機能,
精神心理機能との関連について

石田 朋大 愛知医科大学 運動療育センター

ポスター発表5 [治療]

9月21日(土) 12:55～13:40

座長：前田 吉樹(奈良学園大学)

P5-1 慢性痛を有する高齢者の語りを重視したリハビリテーションアプローチ
—ナラティブを治療目標・プログラム設定に活かす取り組み—

伯母 治 帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 作業療法学科

P5-2 慢性痛患者に対する入院集学的リハビリテーション後の
職場復帰に関する実態調査

浦澤 純一 医療法人篤友会 千里山病院

P5-3 TENS は刺激部位を越えた広範な鎮痛効果を有するか

牧野 七々美 西尾市民病院 リハビリテーション科

P5-4 運動による鎮痛効果は腸内細菌の影響を受けているか

久保田 惇暉 名古屋学院大学 リハビリテーション学部

ポスター発表6 [症例報告]

9月22日(日) 13:40～14:25

座長：島原 範芳(道後温泉病院)

P6-1 中枢性感作の関与が考えられた腰痛を伴う梨状筋症候群に対し
運動療法と痛み日誌の併用が有効であった一例

山川 青空海 産業医科大学若松病院 リハビリテーション部

P6-2 認知行動療法理論を取り入れた運動療法が奏功した慢性頸肩痛症例
—中枢感作指標を加えた効果検証—

服部 貴文 前原整形外科リハビリテーションクリニック リハビリテーション部

P6-3 慢性腰背部痛患者に対する呼吸法を取り入れた
聴覚ニューロフィードバックトレーニングの効果検証

溝本 恭久 医療法人瑞心会 渡辺病院

P6-4 腰髄不全損傷後の神経障害性疼痛が注意要求を付加した主体的運動により
改善した一症例

前野 友希 兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリ療法部

ポスター発表7 [症例報告]

9月21日(土) 12:55~13:40

座長：服部 貴文(前原整形外科リハビリテーションクリニック)

P7-1 変形性股関節症の疼痛に対し Mechanical Diagnosis and Therapy (MDT) のメカニカルな評価にもとづいた腰椎の反復運動を実施し疼痛改善を得た症例

伊藤 博子 医療法人清香会 南新宿整形外科リハビリテーションクリニック

P7-2 侵害受容性疼痛への介入により慢性痛が改善した一例
—多面的評価による検討—

問田 純一 福岡リハビリテーション病院

P7-3 膝蓋骨骨折ギプス解除後に殿部痛を訴える一症例

渡辺 優也 医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 リハビリテーション科

P7-4 術後遷延性疼痛による中枢神経の可塑的变化を考慮した疼痛管理の重要性

河瀬 智文 静岡リハビリテーション病院

ポスター発表8 [症例報告]

9月22日(日) 13:40~14:25

座長：問田 純一(福岡リハビリテーション病院)

P8-1 Duoble level osteotomy 後の膝と術前の膝に対する概念の一致を図ったことで Neglect-like symptoms が改善した症例

眞鍋 匠 医療法人博仁会 福岡リハ整形外科クリニック

P8-2 腫脹感と痛みを主訴とした変形性膝関節症患者への術前介入の経験

森 遼 公益財団法人健和会 大手町病院

P8-3 痛み行動は乏しいが自覚的な痛みを訴える症例

若月 勇輝 医療法人和光会 川島病院 リハビリテーション部

P8-4 母国語での質問紙評価を用いることで適切な作業療法介入が実施できた一症例

黒飛 陽平 JA 静岡厚生連 遠州病院

[illegible]

大会長講演

痛みを治療する
ーペインリハビリテーションの真価ー

座長：平川 善之（福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部）

講師：坂野 裕洋（日本福祉大学 健康科学部）

大会長講演

痛みを治療する —ペインリハビリテーションの真価—

坂野 裕洋

日本福祉大学 健康科学部

21世紀に入り痛み医療は飛躍的に進歩し、生物医学モデルから生物心理社会モデルへのパラダイムシフトに伴い、痛み患者の抱える器質的な問題のみならず、心理、認知、社会面を捉えて多角的な評価と治療が行われるようになった。また、共通認識のもとに多職種による集学的治療が推奨されるようになり、近年開催される痛み関連学会では、ペインリハビリテーションに関するセッションやシンポジウムが数多く企画され、集学的治療において期待される役割やその重責を強く感じる。特に外科的治療や神経ブロック、薬物療法などに抵抗性を示す難治性の慢性疼痛では、身体機能および日常生活活動能力の改善、自己効力感や対処能力の強化、主体的な活動の促進などを目的とした運動療法の専門家として、その価値が問われている。このような潮流を受けて、本邦のペインリハビリテーションにおいても、Fear - avoidance モデルを理解し、疼痛を生物心理社会モデルで捉え、痛みの部位に拘らない包括的な評価や遷延化の予防を含めた治療戦略は広く周知されてきている。また、Patient - reported outcome は、主観的で不快な感覚情動体験である痛みの評価ツールとして効果判定などに用いられ、本邦においても疼痛関連の質問紙が数多く翻訳され普及しはじめている。

しかしながら、痛みに対する「囚われ」「恐怖」「不安」といった心理、認知的な内面が注目される一方で、本来我々が専門とする痛みの感受性や調節機能といった知覚機能、柔軟性や筋力、姿勢や動作、協調性や持久性といった運動機能に関する評価との統合、および治療戦略への落とし込みは不十分であると考え。注目が高まる今だからこそ、ペインリハビリテーションを批判的に吟味し、その適応と限界について共有する必要があると考える。本講演が痛み治療におけるペインリハビリテーションの真価を問うきっかけとなることを期待したい。

協賛企業一覧(順不同)

塩野義製薬株式会社

オージー技研株式会社

ブレースフィット合同会社

ミナト医科学株式会社

株式会社三輪書店

ジャパンライム株式会社

真興交易株式会社

株式会社新興医学出版社

株式会社医学書院

株式会社杏林書院

株式会社協同医書出版社

日本臓器製薬株式会社

アルケア株式会社

アニマ株式会社

インターリハ株式会社

バイオリサーチセンター株式会社

株式会社シーエンジ販売

日本福祉大学

福岡リハビリテーション病院

社会医療法人長崎記念病院

医療法人利靖会

株式会社大竹書店

一般社団法人 日本ペインリハビリテーション学会

定 款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 当法人は、一般社団法人日本ペインリハビリテーション学会と称する。

(主たる事務所)

第2条 当法人は、主たる事務所を愛知県半田市東生見町におく。

(目 的)

第3条 当法人は、痛みのリハビリテーションや研究に携わる多領域の医療従事者および研究者が集まり、痛みとそのリハビリテーションをより科学的な面から追求し、その活動を通じて国民にとって有益な医療の発展を目指す。また、その成果を社会に広く啓発すると同時にそのリハビリテーションを担う人材を育成し、国内外の本分野の医療・研究の指導的な役割を果たすことを目指す。

(事 業)

第4条 前条の目的を達するため次の事業を行う。

- 【1】機関誌やその他の刊行物の発行、及び広報
- 【2】学術大会、講演会、講習会、展示会などの開催
- 【3】国際的な関係諸学会との協力活動
- 【4】国内の関係諸学会との協力活動
- 【5】認定制度の作成および推進
- 【6】適切な診療報酬改定に向けて必要な活動
- 【7】優秀な研究(投稿論文・学術発表)の奨励ならびに表彰
- 【8】痛みのリハビリテーションに関わる人材育成
- 【9】その他当法人の目的を達成するため必要な事業

(公告の方法)

第5条 当法人の公告は、主たる事務所の掲示場に掲示する方法により行う。

第2章 会 員

(種 別)

第6条 当法人の会員は、次の【1】から【5】のいずれかに該当する者で、【1】【2】及び【5】については、所定の手続きを完了した者とする。

- 【1】正 会 員：当法人の目的に賛同する個人で、所定の入会手続きをとった者
- 【2】学生会員：学生の立場にあり、当法人の目的に賛同し、所定の入会手続きをとった者
- 【3】顧 問：当法人を指導する立場にある者
- 【4】功労会員：当法人のために特に功労のあった者
- 【5】賛助会員：当法人の目的に賛同し、事業を賛助するため、会費年額1口以上を納める者

(入 会)

第7条 当法人の正会員、学生会員および賛助会員の入会について、次の資格を設ける。

- 【1】正会員の資格はイ) 医・歯・薬・保健学など、これと関連のある教育課程を修了した者。
ロ) それ以外の者については、理事会においてイ) と同等と認めた者とする。
なお、入会については、入会年度の年会費を事務局に納入した者とする。
- 【2】学生会員の資格は、学生または大学院生の立場にあり、その証明書を当法人事務局に提出した者とする。
- 【3】賛助会員の入会の資格は、理事会の承認が得られた者とする。
- 【4】当法人の正会員の資格喪失したものが再入会する場合には、理事会の承認が必要である。

(会 費)

第8条 会員は別に定める会費を納入しなければならない。

(会員の休止)

第9条 留学や出産・育児など、やむを得ない事情により会員活動が継続できなくなった場合、会員活動休止の旨を当法人の事務局まで届け出なければならない。休止届の受理により、休止期間中の年会費を免除することができる。ただし、既納の会費は返付しない。

(資格喪失)

第10条 会員で自らの意思により退会しようとする者は、その旨を当法人の事務局まで届け出なければならない。退会届の受理により、会員資格は喪失する。ただし、既納の会費は返付しない。

2 会員が次の各号の1つ以上の項目に該当するときは、会員資格は喪失となる。

- 【1】会員で会費を3年以上滞納し、かつその催促に応じないとき
- 【2】会員が死亡したとき、または会員である団体が解散したとき
- 【3】除名されたとき

(除 名)

第11条 会員が次の各号の1つ以上の項目に該当するときは、社員総会の決議を経て除名することができる。

- 【1】当法人の名誉を傷つけ、または当法人の目的に違反する行為があったとき
- 【2】当法人の定款またはその他の規則に違反したとき
- 【3】前2号のほか除名すべき正当な事由があるとき

第3章 社 員

(社 員)

第12条 当法人の代議員を一般社団及び一般財団法人に関する法律(以下「一般法人法」という)上の社員(以下、単に「社員」という)とする。

- 2 社員は、当法人の正会員でなければならない。当法人の成立時の社員は、法人設立時の代議員とする。
- 3 代議員は、2年以上の正会員を経た者の中から別に定める選出規定により選出する。

(社員の資格喪失)

第13条 社員の任期は4年とする。ただし、第10条に掲げる会員の資格喪失に該当するものは、任期中であっても社員の資格を喪失する。

- 2 特別の理由もなく、2年連続当法人の社員総会に欠席した者は、当然に社員の資格を喪失する。なお、第23条の規定により他の社員を代理人として社員総会の議決権を行使する場合、議決権の行使は可能であるが、社員総会への出席には該当しない。

第4章 役員

(種別および定数)

第14条 当法人に、次の役員をおく。

- 【1】理 事 3名以上30名以内
- 【2】監 事 1名以上2名以内
- 【3】理事長 1名
- 【4】副理事長 1名以上2名以内
- 【5】常務理事 1名以上5名以内

(理事・職務)

第15条 理事は理事会を構成し、当法人の会務を分担する。

- 2 理事は社員総会において社員の中から選任する。
- 3 理事長、副理事長、常務理事をもって、一般法人法第91条第1項2号の業務執行理事とする。
- 4 理事長、その他の業務執行理事は、理事会において選任及び解任する。
- 5 理事長は、事務を統括する当法人の代表とする。
- 6 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があったときはそれに代わってその職務を行う。常務理事は理事長を補佐し定められた事務を分掌処理し、日常業務の執行にあたる。
- 7 理事及び監事は、相互に兼ねることはできない。
- 8 理事について、当該理事及びその配偶者または三親等内の親族(これらの者に準ずるものとして当該理事と特別の関係があるとして政令で定める場合を含む)である理事の合計数が理事の総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

(監 事)

第16条 監事は当法人の理事の職務の執行を監査し、これを社員総会にて報告する。

- 2 監事は社員総会において社員の中より選任する。

(任 期)

第17条 理事の任期は、選任後2年内の最終の事業年度に関する定時社員総会の終結の時までとし、任期満了前に退任した理事の補欠として、または増員により選任された理事の任期は、前任者または他の在任理事の任期の残存期間と同一とする。

- 2 監事の任期は、選任後4年内の最終の事業年度に関する定時社員総会の終結の時までとし、任期満了前に退任した監事の補欠として選任された監事の任期は、前任者の任期の残存期間とする。

- 3 任期満了後であっても後任者の就任があるまでは、その職務を行わなければならない。
- 4 理事と監事については、原則として、任期中の欠員補充を行わないものとする。

(報酬)

第18条 理事および監事における役員報酬は無報酬とする。

- 2 役員には、その職務執行を行うために要する費用を支払うことができる。

(事務局員)

第19条 理事長は有給または無給の事務局職員を若干名任命し、置くことができる。なお、事務局職員の任期は雇用開始日からその年度末まで最大1年間とし、契約により更新することができるものとする。

第5章 社員総会

(社員総会)

第20条 当法人の一般法人法上の社員総会は社員をもって構成する。

(種類および招集)

- 第21条 定時社員総会は年1回、毎事業年度終了後3か月以内に理事長が招集する。臨時社員総会は理事長が必要と認めた場合のほか、法令の定めに従って理事長が招集する。
- 2 招集はその開催の少なくとも10日以前に議題を示し、書面または会報または機関誌または電子メールにより、社員総会を構成すべき全員に通知しなければならない。
 - 3 社員総会の議長は、理事長とする。ただし理事長に事故があるときは、あらかじめ理事会において定めた順序に従い、他の理事がこれに代わる。

(社員総会の権限)

第22条 社員総会は、法令およびこの定款で定めるもののほか、当法人の運営に関する重要な事項を決議する。

(議決)

- 第23条 社員は、1人1個の議決権を有する。その決議は次項に定める場合を除き、代理行使を含めて全社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席した社員の議決権の過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、法第49条第2項各号に列挙された事項に関する社員総会の決議は、全社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、かつ、全社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。
 - 3 理事及び監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事または監事の候補者の合計数が第12条に定める員数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に員数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議決権の代理行使、委任状)

- 第24条 社員総会に出席できない社員は、他の社員を代理人とする旨の委任状を書面にて提示したうえで、代理人を通じて議決権を行使することができる。ただし代理権の授与は、社員総会ごとにしなければならない。

(決議等の省略)

- 第25条 社員総会の議題につき社員の全員が、書面または電子メール等の個人を証明しうる媒体をもって同意の意思表示したときは、議題は可決したものとみなす。報告案件につきまた同様とする。

(議事録)

- 第26条 社員総会の議事については、議事録を作成し、これに議事の経過の要領およびその結果を記載し、議長およびその会議において選任された議事録署名人2人以上が、署名押印しなければならない。またこれを10年間主たる事務所に保存するものとする。

第6章 理事会

(理事会の設置)

- 第27条 当法人は、理事会をおく。

(招 集)

- 第28条 理事会は、理事長が招集する。
- 2 招集は理事会の日の一週間前までに、通知しなければならない。ただし、理事および監事の全員の同意があるときは、招集の手続きを経ることなく理事会を開催することができる。

(権 限)

- 第29条 理事会は、次の職務を行う。

- 【1】当法人の業務執行の決定
- 【2】理事の職務の執行の監督
- 【3】理事長の選任及び解職
- 【4】副理事長、常務理事の選任及び解職

(議 決)

- 第30条 理事会の決議は、理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 理事が、決議の目的である事項について提案した場合において、議題につき理事の全員が、書面または電子メール等の個人を証明しうる媒体をもって同意の意思表示したときは、その提案を可決する旨の理事会の議決があったものとみなす。

(議事録)

- 第31条 理事会の議事においては、議事録を作成し、理事長および監事がこれに署名または記名押印する。

第7章 委員会

(専門委員会)

- 第32条 当法人の目的および事業を達成するため、必要に応じて専門委員会を設置することができる。専門委員会は必要に応じて研究集会を開催することができる。
- 2 専門委員会の設置ならびに委員の人選は、理事あるいは社員の発議により社員総会で選任される。
 - 3 専門委員会の審議経過の要約、結論および会計は社員総会において報告されなければならない。

第8章 学術大会

(学術集会)

- 第33条 当法人は年1回学術大会を開催するほか、必要に応じ、講演会、講習会、展示会を開催する。
- 2 学術大会の会長は、理事会で提案され、社員総会で選出される。
 - 3 会長は当該学術大会の運営に関する諮問機関として運営委員会を必要に応じて設置することができる。

第9章 資産及び会計

(資産の構成)

- 第34条 当法人の資産は、次の財産をもって構成する。

- 【1】入会金及び会費
- 【2】寄付金品
- 【3】資産から生じる収入
- 【4】事業に伴う収入
- 【5】その他の収入

(資産の管理)

- 第35条 当法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、社員総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(経 費)

- 第36条 当法人の経費は、資産をもって支弁する。

(事業計画及び収支予算)

- 第37条 当法人の事業計画及び収支予算については、毎事業年度開始前に理事長が作成し、理事会及び社員総会の承認を受けなければならない。

(事業報告及び決算)

- 第38条 当法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が作成し、監事の監査を経て、社員総会の承認を受けなければならない。

(事業年度)

第39条 当法人の会計年度は毎年8月1日に始まり、翌年の7月31日に終るものとする。

第10章 基金

(基金の拠出)

第40条 当法人は社員または第三者に対して法第131条に規定する基金の拠出を求めることができるものとする。

(基金の取り扱い)

第41条 基金を募集するには、その都度募集事項を定めて、基金の申し込み・割当をしなければならない。基金の募集・割り当て・払込み等の手続き、基金の管理等の取り扱いについては、理事会の決議により定める基金取扱規程による。

2 基金の返還は、定時社員総会の決議に基づくことを要し、基金の返還等の取り扱いについては、理事会の決議により定める基金取扱規程による。

(基金の拠出者の権利)

第42条 基金は当法人が解散するまで拠出者に返還しないものとする。それ以外の事由により基金を返還しようとするときは、定時社員総会の決議によって、返還する基金の総額を定め、時期、方法等は理事会が決定したところに従って行わなければならない。

(代替基金の積立)

第43条 基金の返還を行うため、返還される基金に相当する金額を代替基金として積み立てるものとし、代替基金は取り崩しをすることができないものとする。

第11章 定款の変更、解散等

(定款の変更)

第44条 この定款は、社員総会において、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上の議決により変更することができる。

(解 散)

第45条 当法人は、社員総会において、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上の議決により変更することができる。

(残余財産の処分)

第46条 当法人が解散等により清算するときに有する残余財産は、当法人と類似の事業を目的とする他の公益法人、特定非営利活動法人または国もしくは地方公共団体に寄付するものとする。

一般社団法人 日本ペインリハビリテーション学会
役員・委員会委員名簿(順不同, 敬称略)

■顧問

井関 雅子 (順天堂大学)	伊達 久 (仙台ペインクリニック)
牛田 享宏 (愛知医科大学)	西原 真理 (愛知医科大学)
北原 雅樹 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)	細井 昌子 (九州大学病院)
柴田 政彦 (奈良学園大学)	三木 健司 (大阪行岡医療大学)
鈴木 重行 (名古屋大学)	矢吹 省司 (福島県立医科大学)
仙波恵美子 (大阪行岡医療大学)	

■理事長

松原 貴子 (神戸学院大学大学院)

■副理事長

沖田 実 (長崎大学大学院) 森岡 周 (畿央大学大学院)

■理事

井上 雅之 (愛知医科大学)	城 由起子 (名古屋学院大学)
今井 亮太 (大阪河崎リハビリテーション大学)	西上 智彦 (甲南女子大学)
大住 倫弘 (畿央大学大学院)	坂野 裕洋 (日本福祉大学)
片岡 英樹 (長崎記念病院)	平川 善之 (福岡リハビリテーション病院)
坂本 淳哉 (長崎大学大学院)	平瀬 達哉 (長崎大学大学院)
下 和弘 (神戸学院大学)	

■監事

肥田 朋子 (名古屋学院大学) 近藤 康隆 (日本赤十字社長崎原爆病院)

■代議員

江草 典政 (島根大学医学部附属病院)	田中 克宜 (田辺整形外科上本町クリニック)
大賀 智史 (日本赤十字社長崎原爆病院)	田中 創 (九州医療スポーツ専門学校)
大鶴 直史 (新潟医療福祉大学大学院)	筒居 直美 (帝京平成大学)
片山 脩 (国立長寿医療研究センター)	土井 篤 (熊本保健科学大学大学院)
金原 一宏 (聖隷クリストファー大学)	濱上 陽平 (新潟医療福祉大学)
佐藤 剛介 (奈良県リハビリテーションセンター)	平賀 勇貴 (福岡リハビリテーション病院)
重藤 隼人 (三浦内科みちこ小児科クリニック)	壬生 彰 (甲南女子大学)

■ 暫定代議員

大友 篤 (仙台青葉学院短期大学)

■ 事務局

局長

坂野 裕洋 (日本福祉大学)

■ 研究委員会

委員長

西上 智彦 (甲南女子大学)

■ 教育委員会

委員長

坂本 淳哉 (長崎大学大学院)

■ 倫理委員会

委員長

森岡 周 (畿央大学大学院)

■ COI 委員会

委員長

沖田 実 (長崎大学大学院)

■ 編集委員会

委員長

片岡 英樹 (長崎記念病院)

■ 広報委員会

委員長

井上 雅之 (愛知医科大学)

■ 痛み専門医療者委員会

委員長

城 由起子 (名古屋学院大学)

PAIN REHABILITATION

(一般社団法人日本ペインリハビリテーション学会誌) 投稿規程

(平成30年4月1日)

1. 本研究会誌の目的

本誌は一般社団法人日本ペインリハビリテーション学会の学会誌として、痛みに関する情報の共有化の場、さらに基礎研究、臨床研究及び症例報告の場を提供し、痛みに対するリハビリテーションの発展に寄与することを目的とする。

2. 掲載内容

内容は学術集会での発表抄録、研究論文、症例報告、総説論文、トピックス、コラムなど、痛みに関連した論文などを掲載する。

3. 投稿論文の条件

「一般社団法人日本ペインリハビリテーション学会利益相反の取扱いに関する規定」に則り、投稿時に投稿論文と共に利益相反事項届出書を添付しなければならない(詳細は学会ホームページを参照すること)。また、論文には利益相反に関する報告事項を記載する必要がある。これら条件を満たしていない原稿は、掲載を検討せず、投稿者に返却される。さらに投稿論文は他誌に発表、または投稿中ではないものでなくてはならない。

4. 投稿方法

投稿論文の原稿は Microsoft Word、図表は Microsoft PowerPoint として、電子メール(下記学会学術局の Email アドレス)に添付して送付すること。

5. 投稿論文の採択

投稿論文の採否は編集委員会で決定します。審査の結果、不採択の論文はすみやかに返送されます。審査の結果、原稿の一部の改正を求めるか、編集委員会の責任において、語句を修正することがあります。

6. 記事の種類と原稿の規定分量

研究論文: 本文・文献400字詰め原稿用紙20枚(8,000字)以内、図表5枚以内
症例報告: 本文・文献400字詰め原稿用紙15枚(6,000字)以内、図表5枚以内
総説: 本文・文献400字詰め原稿用紙20枚(8,000字)以内、図表5枚以内
トピックス: 本文・文献400字詰め原稿用紙10枚(4,000字)以内、図表5枚以内
コラム: 本文・文献400字詰め原稿用紙10枚(4,000字)以内、図表5枚以内

7. 執筆要領

- ①表紙には和英併記にて、表題、筆署名、所属を付記し、和文にて800字程度の要旨(研究論文、症例報告、総説)、キーワード(5個以内)及び連絡先(住所、TEL)を必ず書いてください。
- ②原稿は左横書、専門用語以外は常用漢字、現代仮名づかい(平かな)を用い、楷書体で平易明瞭に、句読点は「、」及び「。」を用いてください。

③数字は算用数字を用いて、度量衡単位はCGS単位で、m, cm, dl, kg, g, min, secなどを用いてください。

④外国人名には原語を用い、外国地名はカタカナ書きにしてください。

⑤文献の記載方法

引用文献は本文の引用順に並べてください。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、西暦年号、巻、頁(最初-最終)の順に書き、単行本の場合は著者氏名、書名、編集者名、発行所名、発行地、西暦年号、頁を記載してください。文献の省略は公の省略法(Index Medicusなど)に従ってください。引用文献の著者氏名が3名以上の場合は最初の2名を記載してください。

[例]

- 1) 宮本謙三, 竹林秀晃, 他: 加齢による敏捷性機能の変化過程— Ten Step Test を用いて—, 理学療法学, 2008; 35: 35-41.
- 2) Tompkins J, Bosch PR, et al.: Changes in Functional Walking Distance and Health-Related Quality of Life After Gastric Bypass Surgery. Phys Ther. 2008; 88: 928-935.
- 3) 信原克哉: 肩—その機能と臨床— (第3版), 医学書院, 東京, 2001, pp156-168.
- 4) Kocher MS: Evaluation of the medical literature. Chap 4. In: Morrissy RT and Weinstein SL (eds): Lovell and Winter's Pediatric Orthopaedics. 6th ed, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2006, pp97-112.
- 5) 名郷直樹: EBM の現状と課題, エビデンスに基づく理学療法 活用と臨床思考過程の実際, 内山 靖(編), 医歯薬出版, 東京, 2008, pp18-38.
- 6) <http://www.who.int/classifications/icf/site/icftemplate.cfm> (参照 2007-05-19)

8. 筆者校正

筆者校正は1回のみ行います。校正は赤で行ってください。

9. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は一般社団法人 日本ペインリハビリテーション学会に帰属します。

10. 別刷

30部を無料贈呈します。

11. 一般社団法人 日本ペインリハビリテーション学会 編集委員会

〒851-0301 長崎県長崎市深堀町1-11-54

社会医療法人 長崎記念病院リハビリテーション部

片岡 英樹

E-mail: kataoka-hide@kii.bbq.jp

編集委員 片岡 英樹, 坂野 裕洋

編集後記

このたび、「Pain Rehabilitation」第9巻2号をお届けいたします。この第9巻2号は、第24回日本ペインリハビリテーション学会学術大会プログラム・抄録集となっております。

本学術大会では、「痛みを治療する ―ペインリハビリテーションの真価―」をテーマに掲げ、大会長講演、特別講演、特別企画、シンポジウム、教育講演が企画されております。一般演題は80演題もの口述・ポスター発表が予定されております。昨年から引き続き口述発表会場が2会場設けられ、活発な議論が期待されます。

多くの国民が慢性疼痛に悩まされる現状で、ペインリハビリテーションに向けられる期待は日に日に高まっています。そのようななか、ペインリハビリテーションの実践者として、何ができるのか、何をすべきかについて大いに議論し、コンセンサスを形成していけるような学術大会となりますよう、参加される皆様の熱いディスカッションを期待しております。

(片岡 英樹)

Pain Rehabilitation 第9巻2号

令和元年(2019年)8月21日 発行

編集・発行：一般社団法人 日本ペインリハビリテーション学会

事務局：日本福祉大学健康科学部 リハビリテーション学科
理学療法学専攻内
〒470-0012 愛知県半田市東生見町26-2
TEL：0569-20-0118(内線2527)
E-mail：JAPR@ml.n-fukushi.ac.jp

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>